ONKYO®

デジタルシアターステーション

GXW-5.1

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

ONKYO VALUE CUSTOMER

<ユーザー登録のご案内>

さまざまな情報提供や、スムーズにサポートを行うため、インターネットによるユーザー登録をおすすめしています。

http://www.onkyo.co.jp/

上記URLにアクセスしてください。

はじめに

主な特長 ... 2
オーディオ機器の正しい使い方 ... 3
箱を開けたら、まず ... 9
各部の名称と働き ... 11

接続と使用準備をする

スピーカーを配置する ... 13
オーディオ機器や
　ゲーム機を接続する ... 14
スピーカーを接続する ... 16
電源を入れる ... 17
スピーカーまでの距離を設定する ... 18
各スピーカーの
　音量レベルを設定する ... 19

演奏する

機器を選んで演奏する ... 20
リスニングモードを使う前に ... 22
リスニングモードを使う ... 23

その他

主な仕様 ... 26
故障？と思ったら ... 27
アフターサービス ... 裏表紙

主な特長

- ■ 最新のドルビー*プロロジックII、ドルビーデジタル、DTS**デコーダー内蔵
- ■ DVD、ゲーム機、パソコンはもちろん、ビデオやテレビも5.1chサラウンド再生
- ■ 独自のハイクォリティ設計、OMF※1ダイヤフラム採用J'DRIVE※2方式スーパーウーファー（※特許出願中）
- ■ デコーダー、アンプ、スーパーウーファーが一体化。コンパクトで簡単接続、リモコン付属で簡単操作
- ■ 総合出力100W、映画だけでなく音楽、ゲームも臨場感あふれる迫力サウンド
- ■ 6チャンネルアンプ内蔵
- ■ デジタル入力端子として光1系統、同軸1系統を装備
- ■ 見やすい表示部
- ■ オンキヨー独自の7つのリスニングモード
- ■ サンプリング周波数96kHz入力に対応

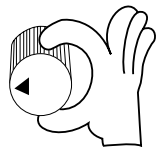
* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、Dolby、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

** 本機はデジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
"DTS"、"DTS Digital Surround"は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

※1 **独自開発OMFダイヤフラム採用のスピーカーユニット**
スピーカーユニットにはすべてOMF（Onkyo Micro Fiber）ダイヤフラムを採用。独自の素材と成形方法によって、振動板に要求される条件（①軽量②高剛性③適度な内部ロス）を最適にバランスさせ、雑音の低減、トランジェント（過渡特性）を向上させています。また、スーパーウーファー部、サテライトスピーカーは、音質の良い木製キャビネットを採用しています。

※2 **コンパクトながら自然で迫力ある重低音、J'DRIVE方式（特許出願中）**
ウーファー部はスピーカーユニット前面の容積を限界まで小さくした特殊な構造を採用し、高い圧力で圧縮膨張した空気を開口部から一気に放出する、いわばジェットエンジンのような空気の流れによって、自然で迫力ある重低音を再現しています。

♪ 音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分しましょう。特に静かな夜間には窓を閉めるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

● 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

● 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

● 本機を使用できるのは日本国内のみです。

● 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や後部などに通風孔があけてあります。次の点に気を付けてご使用ください。

● 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。

● 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。

● テーブルクロスをかけたり、布団の上に置いて使用しないでください。

● 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

● 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

● 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

⚠警告

■ 水の入った容器を置かない

● 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

● 本機の通風孔に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源コードをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

● 雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

● 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより火災・けがの原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

- 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上にものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
- 移動させる場合は、サランネットやスピーカーユニットに手をかけないでください。故障やけがの原因となることがあります。

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、接続コードやスピーカーコードをはずしてから行ってください。落下や転倒など、思わぬ事故の原因となります。

■ スピーカーコードは安全な場所へ

- スピーカーコードの配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。スピーカースタンドを利用した場合や高い所に置いた場合、壁に掛けた場合など、特にご注意ください。

■ 次のような場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 使用上の注意

- 電源を入れたときは、音量に注意してください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
- 長時間音がひずんだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- 音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。
  磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

⚠注意

■ 接続について

- 本機を他のオーディオ機器やテレビ等の機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードやスピーカーコードをはずしてから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

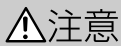
■電池について

- 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■スピーカーコードについて

- スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

■点検・工事について

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

お手入れについて

キャビネットは、時々シリコンクロスまたは、柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものなどでふきますと傷がついたり、文字が消えたり、変色したりすることがありますから、ご使用にならないでください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。
サランネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るか、ブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

カラーテレビやパソコンとの近接使用について

一般にカラーテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどデリケートなものですので普通のスピーカーシステムを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。本機は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）（旧（社）日本電子機械工業会（EIAJ））の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、テレビなどとの近接使用が可能となっています。ただし、設置のしかたによっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15分～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残るような場合はスピーカーをテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものが置かれていますと本機との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。
（ご注意）
テレビなどとの近接使用をする場合、テレビから出ている電磁波の影響で本機の電源を切っていてもスピーカーから雑音を発生することがあります。このような場合は、スピーカーをテレビからさらに離してご使用下さい。

取り扱い上のご注意

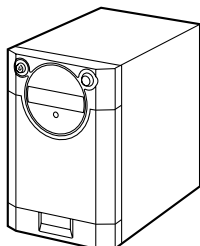
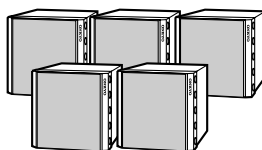
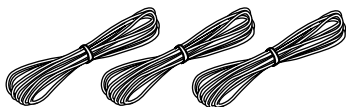
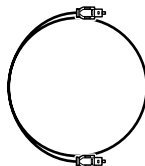
本機は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。

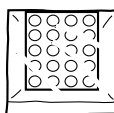
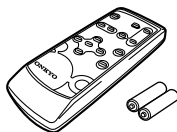
① FMチューナーが同調していないときのノイズ
② テープレコーダーを早送りしたときの音
③ 発信器や電子楽器等の高い周波数成分の音
④ アンプが発振しているとき
⑤ オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
⑥ ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音
⑦ マイク使用時のハウリング

箱を開けたら、まず

付属品を確認する

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。(　)内の数字は数量を表しています。

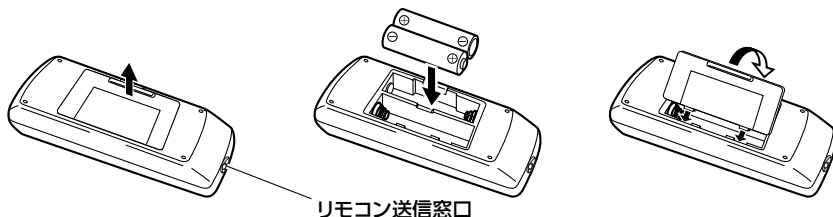
- 本体(1)

- サテライトスピーカー(5)

- スピーカーコード(左右フロント/センター用)2.5m(3)

- オーディオ用光デジタルケーブル(1)

- スピーカーコード(サラウンド用) 8m(2)

- サテライトスピーカー用コルクスペーサー(一組〈20個〉)

- リモコン(RC-442S)(1)
- 乾電池(単3形)(2)

- 取扱説明書(本書1)
- 保証書(1)
- オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内(1)
- ユーザー登録はがき(1)

ご注意

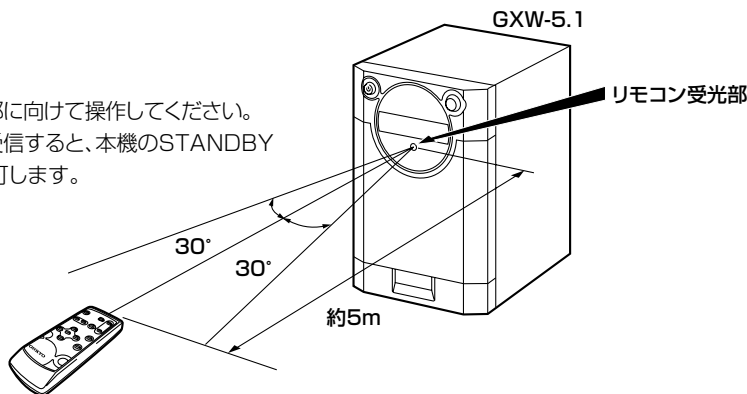
本機は、本体および同梱のサテライトスピーカーとの組み合わせで最良の状態になるように設計されております。本体と他のスピーカーとの組み合わせや、他のアンプとサテライトスピーカーとの組み合わせでご使用になった場合の故障については、保証できない場合がありますのでご了承ください。

リモコンを準備する

乾電池の入れ方と交換の仕方

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 寿命がなくなった電池を入れたままにしておくと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、ただちに古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
- 使用頻度にもよりますが、付属のマンガン電池の寿命は約6ヶ月です。電池の交換時には、単3型をご使用ください。

リモコンの使い方

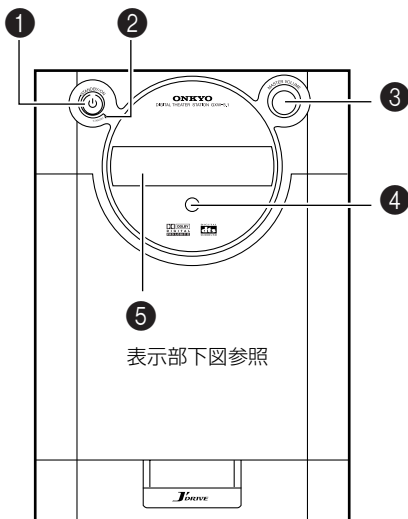
本機のリモコン受光部に向けて操作してください。リモコンから信号を受信すると、本機のSTANDBYインジケーターが点灯します。

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

各部の名称と働き

❺表示部拡大図

***放熱用ファン**

本機内部の温度が上昇したときに、ファンが回ります。

[ ]内の数字は、参照ページを示しています。

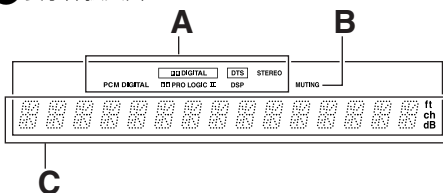
前面パネル

❶ **STANDBY/ON（スタンバイ／電源オン）ボタン[17]**
後面パネルの主電源スイッチがONのとき、電源オンとスタンバイ状態（スタンバイインジケーターが点灯）を切り換えます。

❷ **スタンバイインジケーター[17]**
スタンバイ状態のときや、リモコンからの信号を受信するたびに、赤く点灯します。

❸ **MASTER VOLUME（主音量調整）つまみ[20]**
主音量を調整します。

❹ **リモコン受光部[10]**

❺ **表示部**
A リスニングモードあるいはデジタル入力フォーマットインジケーター
B ミューティングインジケーター
C 多目的表示部

後面パネル

❶ **POWER（主電源）スイッチ[17]**
主電源のON/OFFを切り換えます。

❷ **電源コード[17]**

❸ **FRONT SPEAKERS（フロントスピーカー）端子[16]**
フロントスピーカー（左/センター/右）を接続します。

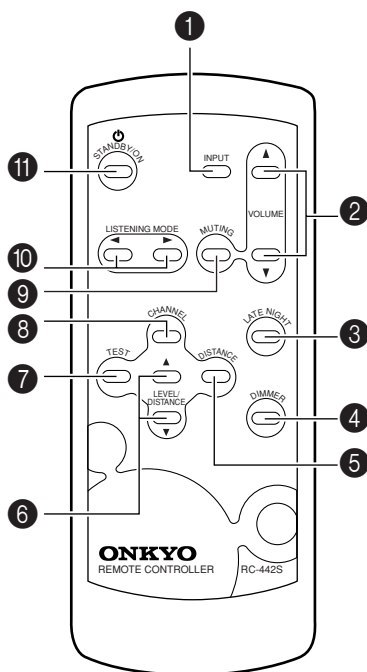
❹ **DIGITAL 1 INPUT (OPTICAL)（デジタル1光入力）端子[14、15]**
付属の光デジタルケーブルで、ゲーム機やCDプレーヤーなどの光デジタル出力端子と接続します。

❺ **DIGITAL 2 INPUT (COAXIAL)（デジタル2同軸入力）端子[14]**
同軸デジタルケーブルで、DVDプレーヤーなどの同軸デジタル出力端子と接続します。

❻ **LINE INPUT（ライン入力）端子[14、15]**
オーディオ用ピンコードで、ビデオデッキなどのライン出力端子（アナログ）と接続します。

❼ **SURROUND SPEAKERS（サラウンドスピーカー）端子[16]**
サラウンドスピーカー（左/右）を接続します。

［ ］内の数字は、参照ページを示しています。

リモコンRC-442S

❶ INPUT（入力切り換え）ボタン[20]
押すたびに、入力信号が切り換わります。

❷ VOLUME（音量調整）▲/▼ボタン[20]
▲を押すと音量が上がり、▼を押すと下がります。

❸ LATE NIGHT（レイトナイト）ボタン[25]
ドルビーデジタル録音されたソフトを演奏するとき、ダイナミックレンジ（音量の大小幅）を小さくします。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するとき、小さな音も聞こえやすくなります。

❹ DIMMER（ディマー）ボタン[21]
押すたびに、表示部の明るさを3段階（普通／やや暗い／暗い）に調節します。

❺ DISTANCE（距離設定）ボタン[18]
スピーカーとの距離を設定するときに押します。

❻ LEVEL/DISTANCE（レベル/距離調整）▲/▼ボタン[18、19、25]
各スピーカーのレベルや距離を設定するとき、数値を上げ下げします。

❼ TEST（テストトーン出力）ボタン[19]
各スピーカーから、テストトーンが出力されます。スピーカーのレベルを合わせるときに使用します。

❽ CHANNEL（チャンネル切り換え）ボタン[18、19、25]
距離またはレベルを設定するスピーカーを選びます。

❾ MUTING（ミューティング）ボタン[21]
音量を一時的に下げます。

❿ LISTENING MODE（リスニングモード）◄/►ボタン[23]
リスニングモードを選びます。

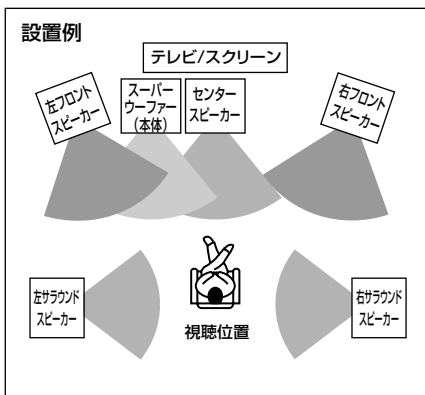
⓫ STANDBY/ON（スタンバイ/電源オン）ボタン[17]
後面パネルの主電源スイッチがONのとき、電源オンとスタンバイ状態（スタンバイインジケーターが点灯）を切り換えます。

スピーカーを設置する

本機は6チャンネルのアンプを内蔵しており、本体内蔵のスーパーウーファーと5つのサテライトスピーカーを適切に配置することにより、最適なサラウンド再生を楽しむことができます。
付属のサテライトスピーカーはすべて同じ性能です。3つを左右フロントスピーカーとセンタースピーカーとして、2つを左右サラウンドスピーカーとして使用します。

基本的な設置例と各スピーカーの役割

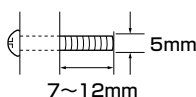
スピーカーの設置は、実際には部屋の大きさや壁の材質などによっても違ってきますが、ここでは各スピーカーの基本的な配置例と各スピーカーの役割を紹介します。

■ **サテライトスピーカー用コルクスペーサーについて**
よりよい音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。
また、コルクスペーサーを使用することにより、すべりにくく安定して設置することができます。

- **左右フロントスピーカーとセンタースピーカー**
  視聴者の前方に配置します。
  — 3つのスピーカーがなるべく同じ高さになるように設置してください。
  — 音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向くように配置してください。
  センタースピーカーは、左右フロントスピーカーの音源効果や、音の動きを明確にして、より豊かなサウンドイメージを作ります。

- **左右サラウンドスピーカー**
  視聴者の横または後ろに配置します。
  音の立体的な動きを表現し、背景をイメージした環境音、また場面を盛り上げる効果音を作りだして臨場感を高めます。

- **スーパーウーファー（本体）**
  フロントスピーカーの近くに配置します。
  迫力のある重低音効果を最大限に発揮します。

ご注意
スーパーウーファー（本体）は、リモコンで操作できる位置に配置してください。

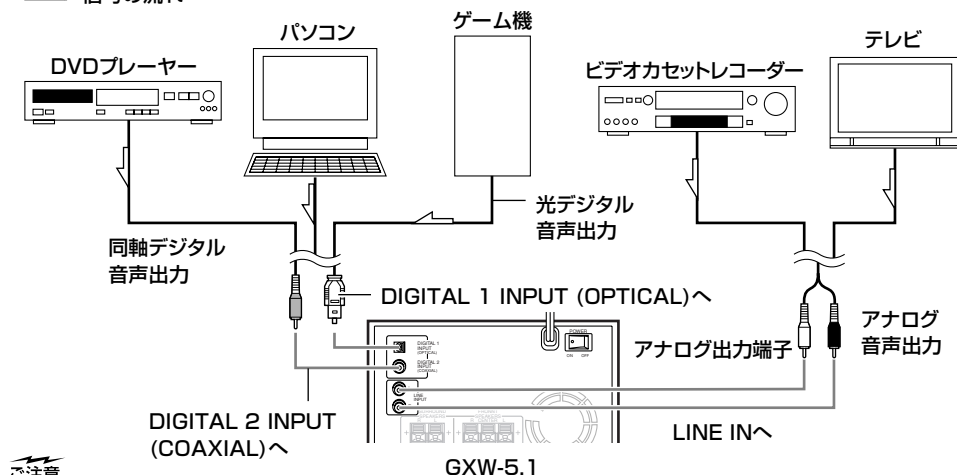
■ **サテライトスピーカーを固定するには**
5つのサテライトスピーカーには、市販されているスタンドや金具を使用できるネジ穴がつけられています。底面にはピッチ60mmでM5用ネジ穴が2個、背面にはM5用ネジ穴1個を設けてあります。取り付け方法については、ご使用になるスタンドや金具の説明書をご覧ください。

スタンドや金具をご使用になるときは、ネジ長に注意してください。有効ネジ長が7～12mmのものをご使用ください。

オーディオ機器やゲーム機を接続する

本機には2種類（光/同軸）のデジタル音声入力端子とアナログのライン入力端子があり、最大で3種類の音声機器やゲーム機器を接続することができます。

- ドルビーデジタル、DTSソフトなどのデジタル信号を再生するためには、デジタル音声入力端子への接続が必要です。
- パソコンで5.1チャンネルサラウンドを楽しむには、DVD-ROMドライブのほかに、デジタル出力（光または同軸）に対応したパソコンや音源ボードが必要です。

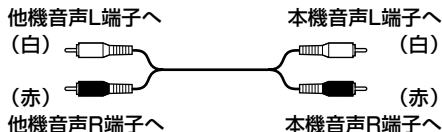
すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。

オーディオ機器・ゲーム機の接続例

ご注意

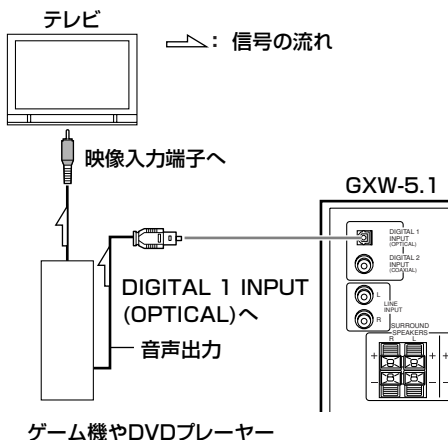
- DIGITAL 1 INPUT（OPTICAL）端子には、保護用キャップが取り付けられています。接続時は、このキャップを取り外してください。使用しない場合、キャップは必ずもとどおりに取り付けておいてください。

- 音声用ピンコードは、次のように接続してください。

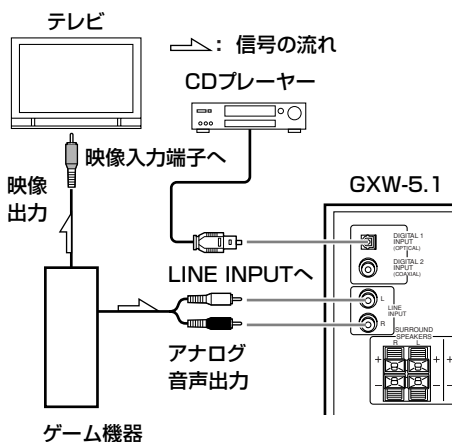
- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全だと、雑音や動作不良の原因になります。

- 音声用ピンコードはスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質が悪くなることがあります。
- DIGITAL 2 INPUT（COAXIAL）端子を使用される場合は、コア付きケーブルをご使用ください。コア付きでない場合、他の機器に電波障害が発生する場合があります。

テレビを含む接続例

本機に接続できるのは、音声信号のみです。映像信号は、それぞれの機器から直接テレビに接続する必要があります。

■ ゲーム機やDVDプレーヤーのみを接続する場合

ゲーム機やDVDプレーヤーの映像出力をテレビの映像入力に接続し、音声出力を本機に接続します。

この接続では、ゲーム機やDVDプレーヤーでソフトを再生し、本機のINPUTボタンで接続した機器の音声入力信号を選びます。

■ ゲーム機とCDプレーヤーを同時に接続する場合

ゲーム機の映像出力をテレビの映像入力に接続し、音声出力を本機に接続します。

このとき、たとえばゲーム機の音声出力を本機のLINE INPUT端子に接続し、CDプレーヤーの音声出力を本機のDIGITAL 1 INPUT(OPTICAL)端子に接続しておくと、本機の入力切り換え操作だけで、ゲームとCDを使い分けることができます。

ゲーム機の音声出力をテレビに接続しているときは

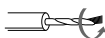
テレビの音声出力を本機のLINE INPUT端子に接続してください。

スピーカーを接続する

接続の前に

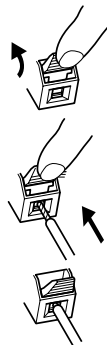
付属のスピーカーコードの準備をします。

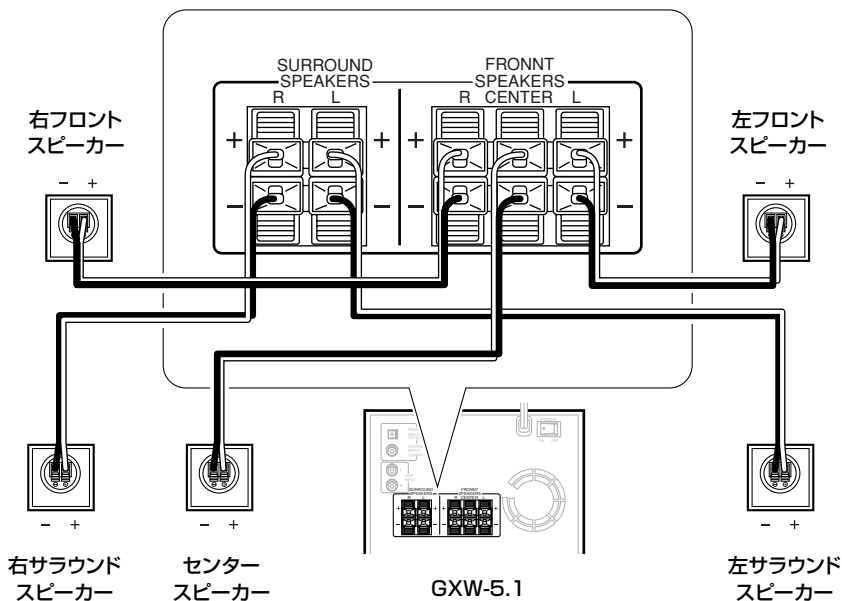
❶ スピーカーコードのビニールカバーの先を外します。

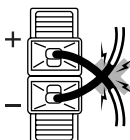
❷ しん線をよじります。

スピーカー端子への接続方法

❶ レバーを押します。

❷ しん線を穴の中に入れます。

❸ レバーをはなします。

左右フロント、センター、サラウンドスピーカーの接続図

ご注意

- プラス（+）とマイナス（−）を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。音声が不自然になります。
- 付属のスピーカーコードの白線の入っている方をプラス（+）側に接続してください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスあるいはL/Rを絶対にショートさせないでください。

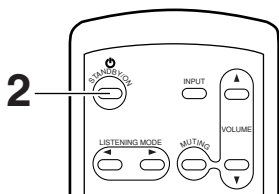
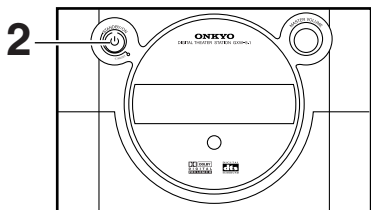
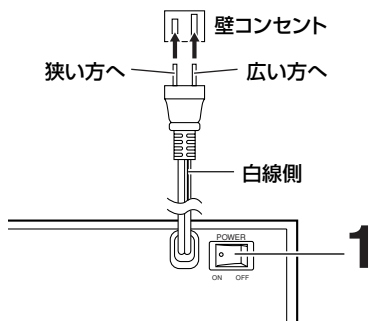
電源を入れる

本機の電源を壁のコンセントに接続する

接続する前に

- 本機の電源コード以外の、すべての接続が完了していることを確認してください。
- 電源コードはより良い音質で聞いていただくために、極性の管理がされています。電源コードの片側に白線の入っている側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。

ご注意

本機は主電源スイッチ（POWER）がONの状態で工場出荷されていますので、最初に電源コードのプラグをコンセントに差し込むとスタンバイインジケーターが点灯し、下記の「電源を入れる」の手順1と同じ状態になります。

電源を入れる

1 後面パネルのPOWER（主電源）スイッチをONにする

スタンバイインジケーターが点灯し、スタンバイ状態になります。

2 前面パネルまたはリモコンのSTANDBY/ON（スタンバイ/電源オン）ボタンを押す

スタンバイインジケーターが消え、表示部が点灯します。

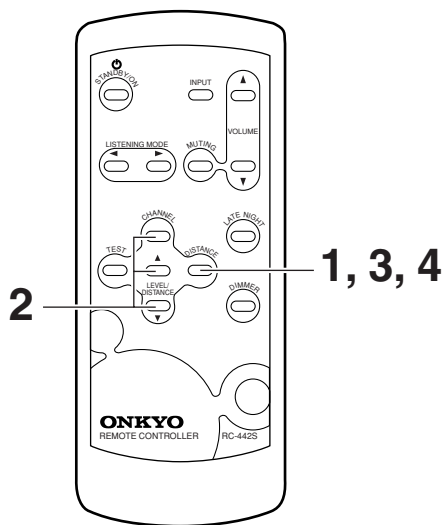
メモリー保持について

本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、登録したレベル設定（☞19ページ）などを停電時などに保護するためのものです。2週間以上本機の主電源を切った状態にしておくと、メモリー内容は消えてしまいます。

誤動作するときは

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、静電気などの影響を受けて誤動作するときがあります。このようなときは、電源コードを壁のコンセントから一度抜き、5秒以上たってからつなぎなおしてください。

スピーカーまでの距離を設定する

操作の前に、設置したスピーカーから聞く位置までの距離を設定します。
スピーカーの設置については、「スピーカーを設置する」(☞13ページ)をご覧ください。

ご注意

- センタースピーカーは、左右のフロントスピーカーより1.5mまで近くに設定できますが、フロントスピーカーより遠くには設定できません。
- 左右のサラウンドスピーカーは、左右のフロントスピーカーより4.5mまで近くに設定できますが、フロントスピーカーより遠くには設定できません。

1 リモコンのDISTANCEボタンを押す

表示部にフロントスピーカーまでの距離が表示されます。

FRONT　　=3.0M/ 10ft

2 LEVEL/DISTANCE▲/▼ボタンで、実際の距離に近い数値に設定します

▲ボタンを押すと数値が上がり、▼ボタンを押すと下がります。
0.3m〜9.0mの範囲で設定できます。

3 CHANNELボタンを押してスピーカー表示を切り換え、すべてのスピーカーまでの距離を設定する

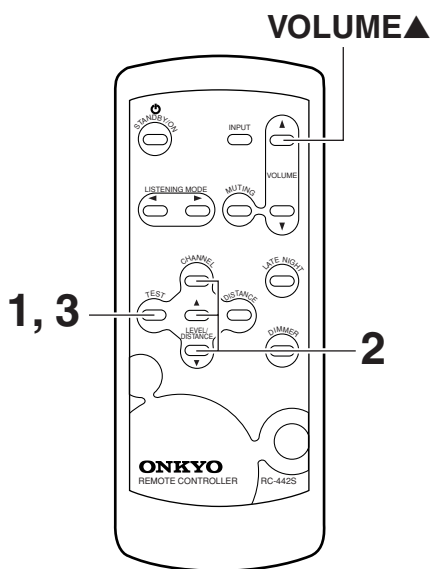
ボタンを押すたびに、スピーカーの表示が次のように切り換わります。設定方法は、手順2と同じです。

FRONT（左右のフロントスピーカー）
↓
CENTER（センタースピーカー）
↓
SURR（左右のサラウンドスピーカー）
↓
（FRONTに戻る）

4 DISTANCEボタンを押す

通常の表示に戻ります。

各スピーカーの音量レベルを設定する

各スピーカーからの音量が同じに聞こえるように、それぞれの音量レベルを設定します。

1 リモコンのTESTボタンを押す

左のフロントスピーカーから「ザー」というテスト音が出ますので、VOLUME ▲ ボタンでいつも聞く音量にしてください。その後、下記の順で各スピーカーからテスト音がでます。

LEFT（左のフロントスピーカー）
↓
CENTER（センタースピーカー）
↓
RIGHT（右のフロントスピーカー）
↓
SURR RIGHT（右のサラウンドスピーカー）
↓
SURR LEFT（左のサラウンドスピーカー）
↓
SUBWOOFER（スーパーウーファー）
↓
LEFT（左のフロントスピーカー）に戻る

テスト音は、TESTボタンを押したあと、何も操作しないでいると、自動的に次のチャンネルに移り、2秒ずつテスト音を出力します。10回くりかえして止まります。

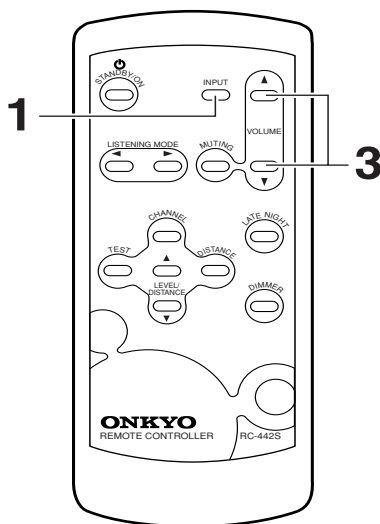
2 CHANNELボタンを押してスピーカーを切り換え、LEVEL/DISTANCE▲/▼ボタンで、聞く位置から各スピーカーの音量が同じに聞こえるように調整する

▲ボタンを押すと音量が上がり、▼ボタンを押すと下がります。
－12dB～＋12dBの範囲で設定できます。
（SUBWOOFER（スーパーウーファー）は、－30dB～＋12dB）

CENTER 0 dB

3 TESTボタンを押す

設定したスピーカーの音量レベルが記憶され、通常の表示に戻ります。

機器を選んで演奏する

1 リモコンのINPUTボタンを繰り返し押して、入力を選ぶ

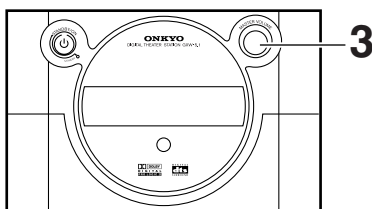
DIG1: DIGITAL 1 INPUT (OPTICAL)端子に接続された機器
DIG2: DIGITAL 2 INPUT (COAXIAL)端子に接続された機器
ANALOG: LINE INPUT端子に接続された機器

3秒間経つと、選んだ入力とリスニングモードの表示になります。

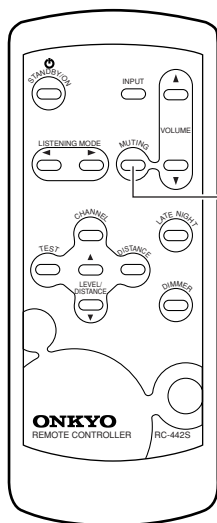
DIG1 DOLBY D

2 選んだ機器の演奏を始める

3 前面パネルのMASTER VOLUMEつまみまたはリモコンのVOLUME▲/▼ボタンで音量を調整する

MASTER VOLUMEつまみは、右に回すと音量が上がり、左に回すと下がります。
リモコンのVOLUMEボタンは、▲を押すと音量が上がり、▼を押すと下がります。

アナログ/デジタルの切り換えについて

DIG1またはDIG2を選んだとき、本機は常にデジタル信号を選択します。デジタル信号が検出されない場合も、アナログに切り換わることはありません。
アナログ信号を入力するときは、LINE INPUT端子に機器を接続し、入力設定をANALOGに切り換えてください。

音を一時的に消す（ミュート機能）

音楽を聞いているときに、電話がかかってきてすぐに音を小さくしたいときなどに役立ちます。

MUTINGボタンを押す

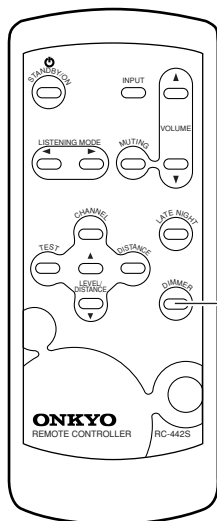
表示部のMUTINGインジケーターが点滅し、一時的に音量を下げます。

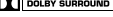
MUTING

もう一度押すと、元の音量に戻ります。

ご注意

一度スタンバイ状態にすると、次に電源を入れたとき、ミュート機能は解除されています。

表示部の明るさを変える

DIMMERボタンを押す

押すたびに、表示部の明るさが3段階（普通／やや暗い／暗い）に切り換わります。

リスニングモードを使う前に

本機には、以下のリスニングモードがあります。

DOLBY DIGITAL Surround/DTS (Digital Theater System) Surround

20Hz ～20kHzの5チャンネル(左右フロント、センター、サラウンド2ch)と、低域効果音を記録したLFE(Low Frequency Effect)チャンネルを、それぞれ混ぜ合わせることなく独立して記録・再生する5.1chのデジタル・サラウンド・フォーマットです。データの転送レートなどに違いはあるものの、いずれのフォーマットでも、ご家庭でも簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドをご体験いただけます。DOLBY DIGITALは、DOLBY DIGITALマークのついたDVDビデオなどの再生時に楽しむことができます。DTSはdtsマークのついたDVD、LD、CDなどの再生時に楽しむことができます。

DOLBY PRO LOGIC II Surround

従来の4チャンネル(左右フロント、センター、モノラルのサラウンドチャンネル)のプロロジックサラウンドと5.1チャンネルのドルビーデジタルサラウンドの橋渡しをする、次世代の5チャンネルサラウンド方式です。映画に最適なMovieモードと音楽再生に最適なMusicモードの2つのモードが選択できます。Movieモードでは、従来モノラルで帯域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、より移動感のある再生が楽しめます。また、Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。DOLBY PRO LOGIC II Surroundは、DOLBY SURROUNDマークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のテレビ番組再生時に楽しむことができます。また、Musicモードは CDなどのステレオ音楽にも適しています。

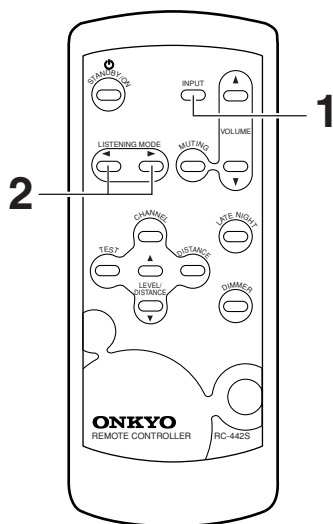
オンキヨー独自のリスニングモード

ドルビーデジタルまたはDTS以外のソースでは、オンキヨー独自のリスニングモードを楽しむことができます。

- GAME ACT: シューティング／アクションゲーム用。迫力のあるサラウンド音声になります。
- GAME SIM: シミュレーションゲーム用。臨場感を高めます。
- GAME ADV: ロールプレイングゲーム用。会話の雰囲気を重視します。
- POPS/ROCK: ポピュラーミュージック用。ライブの迫力を出します。
- MUSICAL: クラシックやミュージカルの演奏用。自然な広がりを重視します。(センタースピーカーの音は出ません。)
- TV FAN: スタジオ収録のテレビ番組用。全体的なサラウンド感とセリフの明瞭度を高めています。
- ALL CH ST: BGMとして音楽をかけるときのモード。フロントとサラウンドチャンネルの両方で、ステレオイメージをつくり出します。

DTS についてのご注意

- DTS対応のCDやLDを「ANALOG」の設定で再生すると、DTSエンコード信号をそのまま再生するため、ノイズが出力されます。このノイズを再生すると、アンプやスピーカーにダメージを与える恐れがありますので、DTSソースを再生するときは必ずデジタル(OPTICAL/COAXIAL)入力端子に接続してください。
- DTSソースを再生している時にプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。デジタル出力に何らかの処理(出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など)が行われていると、本機では正しいDTSデータとみなすことができないからです。このような処理を行いながらDTSソースを再生すると、ノイズを発生してしまいます。

リスニングモードを使う

1 リモコンのINPUTボタンを繰り返し押して、演奏したい機器の入力信号を選ぶ

表示部に選んだ入力とリスニングモードが表示されます。

DIGITAL 1の設定がDOLBY DIGITALの場合

選んだ入力　リスニングモード

2 LISTENING MODE◄/►ボタンを押して、リスニングモードを選ぶ

左右のボタンを押すたびに、モードが切り換わります。選べるモードは入力信号の種類によって異なります。（下の表をご覧ください。）

3 選んだソースを演奏する

リスニングモードを解除するには

STEREOになるまでLISTENING MODEボタンを押します。通常のステレオ音声に戻ります。

入力ソースの信号（意味） フォーマット*	ANALOG/PCM (アナログ/PCM)	DOLBY D (ドルビーデジタル) 2/0以外	2/0	DTS
ソースとなるソフト ／ リスニングモード	カセット、CD レコード、チューナー	DVDビデオ		DVDビデオ CD
Stereo	●	●	●	●
Dolby D (Dolby Digital)		●		
DTS				●
Pro Logic II Movie	●		●	
Pro Logic II Music	●		●	
GAME ACT	●			
GAME SIM	●			
GAME ADV	●			
POPS/ROCK	●			
MUSICAL	●			
TV FAN	●			
ALL CH ST	●			

* フォーマットについては、次ページをご参照ください。

フォーマットの表示について

入力ソースの信号

DOLBY D（ドルビーデジタル）
DTS
ANALOG/PCM（アナログ/PCM）

ソースを演奏するなど、音声信号が入力されたときや、演奏途中でフォーマットが変わったときなどに表示部に次のような表示が3秒間出ます。
意味は次のようになっています。

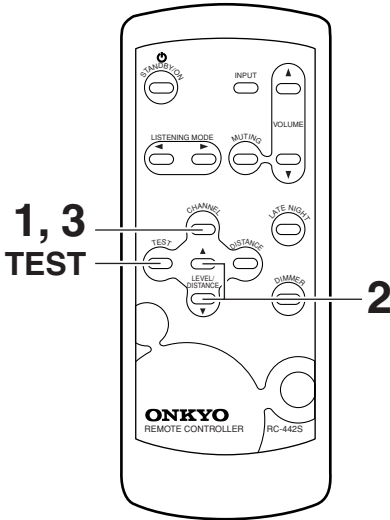
a. **フロントチャンネルの数を表します。**
- 3: フロントの音声が、L（左）、C（センター）、R（右）の3チャンネル
- 2: L（左）、R（右）の2チャンネル
- 1: モノラル（1チャンネル）

b. **サラウンドチャンネルの数を表します。**
- 2: LS（左サラウンド）、RS（右サラウンド）
- 1: モノラル（1チャンネル）
- 0: なし

c. **LFE（低域効果音:Low Frequency Effect）のありなしを表します。**
- .1: LFE あり
- 空白: LFEなし

例えば、「3／2.1」と表示された場合は、前方3チャンネルとサラウンド2チャンネル、それにLFEがそれぞれ独立してエンコードされたソースであることを表しています。

一時的にスピーカーレベルを調整する

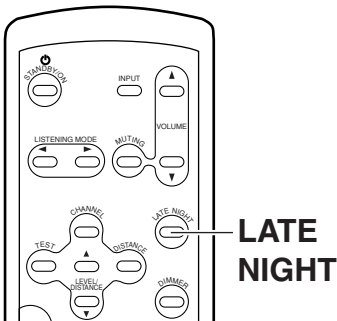
再生中、一時的にスピーカーのレベルを調整することができます。

1 再生中にリモコンのCHANNELボタンを押して、スピーカーを選ぶ

2 LEVEL/DISTANCE▲/▼ボタンで、聞く位置から各スピーカーの音量が同じに聞こえるように調整する

▲ボタンを押すと音量が上がり、▼ボタンを押すと下がります。
−12dB〜+12dBの範囲で設定できます。
（スーパーウーファーは、−30dB〜+12dB）

3 CHANNELボタンを押す

スーパーウーファーを選んでいるときに、CHANNELボタンを押すと、通常の表示に戻ります。この設定は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。CHANNELボタンのかわりにTESTボタンを押すと、テストトーンで調整したレベルとして保存されます。

レイトナイト機能（DOLBY DIGITALソフト再生時のみ）

ドルビーデジタル録音されたソフトを演奏するとき、ダイナミックレンジ（音量の大小幅）を小さくします。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するとき、小さな音も聞こえやすくなります。

LATE NIGHTボタンを押す

押すたびに、2段階のレイトナイトモード（HIGH/LOW）とOFFを切り換えることができます。
HIGHにするとLOWよりさらに効果があります。音量が小さくて聞き取りにくいときはHIGHにしてください。

ご注意

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトにのみ効果があります。
- レイトナイトの効果は、ドルビーデジタルソフトによって決まっていますので、ソフトによっては効果が少なかったり、効果がない場合もあります。
- レイトナイト機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

主な仕様

■ 本体（本体は、デコーダー、アンプ、スーパーウーファーが一体になっています。）

アンプ部

定格出力（各チャンネル駆動時）	
フロント、サラウンド部	15 W × 5（1 kHz、6 Ω /EIAJ）
スーパーウーファー部	25 W（100 Hz、3 Ω /EIAJ）
周波数特性	
フロント、サラウンド部	150 Hz － 20 kHz、＋ 1/ － 3 dB（Stereo モード）
スーパーウーファー部	20 Hz － 150 Hz、＋ 1/ － 3 dB（Stereo モード）
全高調波歪み率	0.1%（出力 5 W）
SN 比	100 dB（STEREO 時、IHF A 0.5 V 入力）
ミュート	－ 60 dB
入力	
デジタル 1	光（OPTICAL）
デジタル 2	同軸（COAXIAL）
アナログ	RCA L/R（200 mV/50 k Ω）

スピーカー部

形式	J ドライブ方式　16 cm OMF コーン

一般

電源	AC100V、50/60 Hz
消費電力	100 W（電気用品安全法技術基準）
外形寸法(幅×高さ×奥行き)	205 mm × 300 mm × 288 mm
質量	8.9 kg
その他	防磁設計（EIAJ）

■ サテライトスピーカー

形式	8 cm OMF コーン（1ヶにつき 1 本使用）
外形寸法(幅×高さ×奥行き)	105 mm × 97 mm × 100 mm
質量	各 0.6 kg
その他	防磁設計（EIAJ）

性能および外観は、性能向上のため予告なしに変更することがります。

故障?と思ったら

本機が正常に動作しないときは、この表を参考にしてお調べください。これらの処理をしても直らないとき、これ以外の症状のときは、電源コードをコンセントから抜いて「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名（GXW-5.1）」「故障状況」をできるだけ詳しくお買い上げいただいたお店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

症状	原因	対応の仕方
電源を入れた途端に電源が切れた。	アンプ保護回路が動作した。	ただちに電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店もしくは当社サービスステーションにご連絡ください。
電源が入らない	電源コードがコンセントから抜けている。	電源コードをコンセントに差し込んでください。(☞17 ページ)
	背面の POWER(主電源)スイッチが OFF (オフ)になっている。	ON(オン)にしてください。(☞17 ページ)
	外部ノイズが本機内部のマイコンに影響した。	電源プラグを一度コンセントから抜き、5 秒以上たってから再度つなぎなおしてください。(☞17 ページ)
	本機内部のヒューズが切れた。	お買い上げ店もしくは当社サービスステーションにご連絡ください。
電源は入るが、音が出ない。	MUTING インジケーターが点滅している。	リモコンの MUTING ボタンを押して MUTING インジケーターを消してください。(☞21 ページ)
	ピンコードやスピーカーコードの接続が正しくない。	もう一度接続を確認してください。プラグやコード類はしっかりと接続してください。(☞14 ページ)
	マイコンが誤作動している。	電源プラグを一度コンセントから抜き、5 秒以上たってから再度つなぎなおしてください。(☞17 ページ)
	INPUT(入力)の設定が正しくない。	再生している機器が接続されている INPUT にしてください。(☞20 ページ)
リモコン操作ができない。	•リモコンに電池が入っていない。 •電池の寿命がなくなっている。 •リモコン受光部が障害物でふさがれている。	•乾電池を正しく入れてください。 •新しい乾電池と交換してください。(☞10 ページ) •障害物を取り除いてください。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて約5秒後に改めて電源プラグを入れてください。

※ マイコンのリセットについて
サラウンドモードなどの設定をすべて初期（工場出荷時の設定内容）化したいときは、スタンバイ状態のときに本体のSTANDBY/ONボタンを押したままリモコンのLATE NIGHTボタンを押してください。表示部にCLEARが表示され、初期化されると同時にスタンバイ状態になります。

アフターサービス

■保証書
この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間はお買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは
意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、ただちに電源プラグを抜いてから、修理を依頼してください。

■保証期間中の修理は
万一、故障や異常が生じたときは商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。
詳細は保証書をご覧ください。

■修理を依頼されるときは
「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名(GXW-5.1)」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しく、お買い上げ店または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■保証期間経過後の修理は
お買い上げ店または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について
当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店または当社サービスステーションにご相談ください。

ご購入された時にご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。
ご購入年月日　:　　年　　月　　日
ご購入店名　:
Tel.　(　　)
メモ:

ONKYO®
オンキヨー株式会社

本社／大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

http://www.onkyo.co.jp/

アフターサービスのお問い合わせ先:
お買い上げの販売店もしくは「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」に記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。

● 東京サービスセンター ☎03(3861)8121
● 大阪サービスセンター ☎06(6576)7620

SN 29343032A

D0103-1